連　結　情　報

連結会計年度　自　平成元年４月１日　至　平成２年３月31日
連結会計年度　自　平成２年４月１日　至　平成３年３月31日

大蔵大臣殿

平成３年６月28日提出

会社名　太陽誘電株式会社

英訳名　Taiyo Yuden Co., Ltd.

代表者の役職氏名　代表取締役社長　川田　貢

本店の所在の場所　東京都台東区上野６丁目16番20号　電話番号　東京（3832）0101（代表）

連絡者　取締役管理本部長　安藤　顯

もよりの連絡場所　同上　電話番号　同上

連絡者　同上

（本書面の枚数　表紙共15枚）

証券コード 6976

1. 企業集団の状況に関する重要な事項

連結会社が営んでいる主な事業内容と連結会社の当該事業に係る位置づけは次のとおりであります。

連結財務諸表提出会社

太陽誘電㈱は、大別して磁器コンデンサ製品、回路製品、フェライトおよび応用製品の製造販売を行っております。

太陽誘電㈱が磁器コンデンサ製品、回路製品、フェライトおよび応用製品の一部及び半製品の製造を行い、国内及び海外生産子会社へ半製品及び原材料を供給し、完成品として国内及び海外生産子会社より仕入れた製品と共に、そのほとんどを国内外のセットメーカーへ直接販売しており、また、国内及び海外販売子会社へ供給しております。

国内子会社

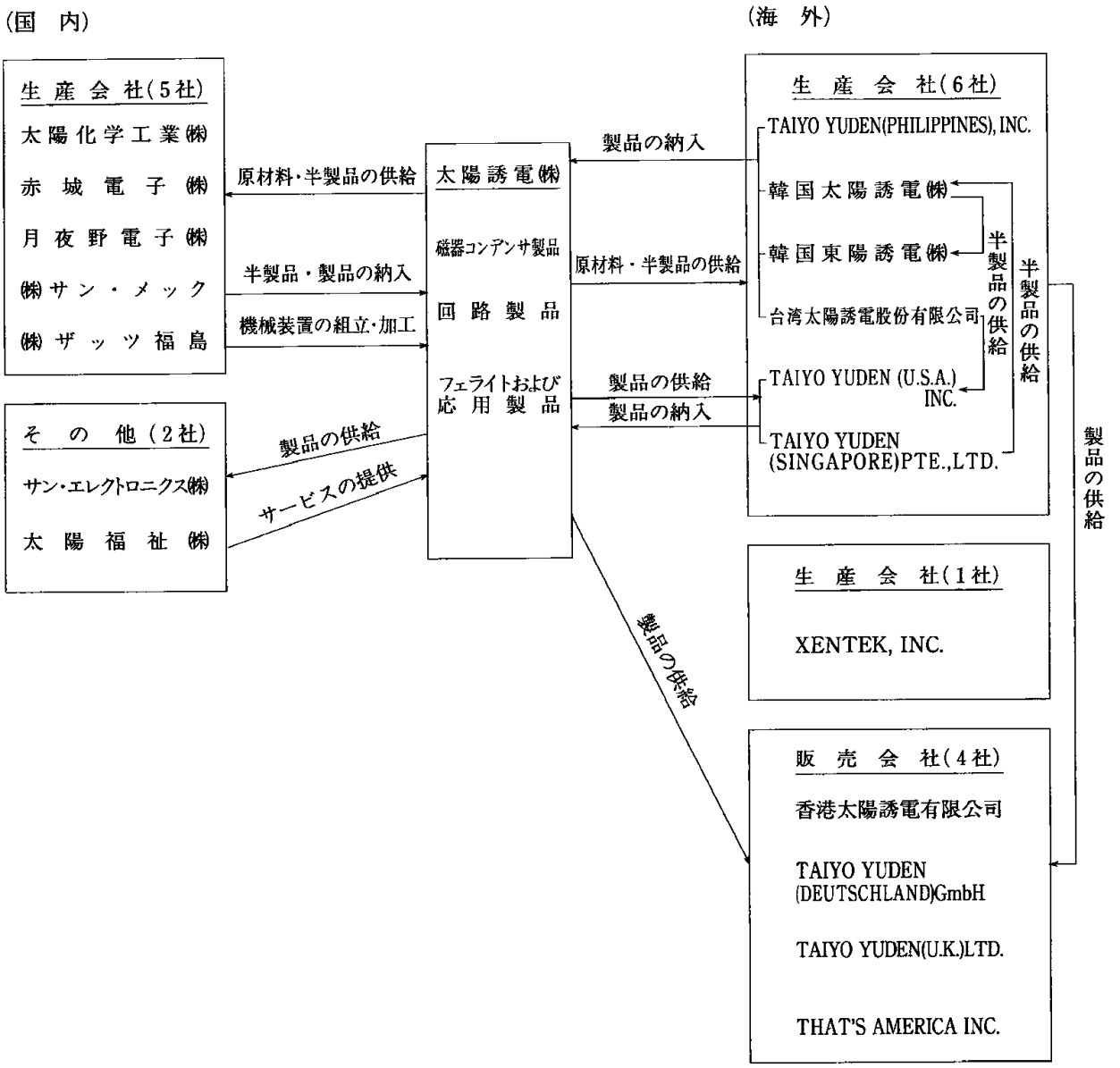
生産子会社である5社の連結子会社は、太陽誘電㈱より供給を受けた原材料及び半製品を完成品に組立・加工を行い、太陽誘電㈱へ納入しております。その他の連結子会社として、回路製品が主要な取扱い製品である国内販売会社のサン・エレクトロニクス㈱と従業員への保険代行・物品購入代行等を取扱う太陽福祉㈱があります。

海外子会社

生産子会社である6社の連結子会社は、太陽誘電㈱より供給を受けた原材料及び半製品を主として完成品に組立・加工を行い、海外のセットメーカーへ直接販売すると共に太陽誘電㈱、生産子会社及び海外販売子会社へ供給しております。また、生産子会社であるXENTEK,INC.は、電源の組立・加工を行い、海外のセットメーカーへ直接販売しております。

磁器コンデンサ製品については生産子会社6社において製品の一部の製造を行い、回路製品については韓国太陽誘電㈱において製品を製造し、フェライトおよび応用製品についてはTAIYO YUDEN (SINGAPORE) PTE., LTD. 及び韓国太陽誘電㈱が製品を製造しております。

販売子会社である4社の連結子会社は太陽誘電㈱及び海外生産子会社より製品の供給を受け、海外のセットメーカーへ直接販売しております。


(国　内)
(海　外)
生　産　会　社(5社)
太陽化学工業㈱
赤　城　電　子　㈱
月　夜　野　電　子　㈱
㈱サン・メック
㈱ザッツ福島
その　他(2社)
サン・エレクトロニクス㈱
太　陽　福　祉　㈱
原材料・半製品の供給
半製品・製品の納入
機械装置の組立・加工
製品の供給
サービスの提供
太陽誘電㈱
磁器コンデンサ製品
回　路　製　品
フェライトおよび
応　用　製　品
製品の納入
原材料・半製品の供給
製品の供給
製品の納入
生　産　会　社(6社)
TAIYO YUDEN(PHILIPPINES), INC.
韓国太陽誘電㈱
韓国東陽誘電㈱
台湾太陽誘電股份有限公司
TAIYO YUDEN (U.S.A.) INC.
TAIYO YUDEN (SINGAPORE)PTE.,LTD.
半製品の供給
半製品の供給
製品の供給
生　産　会　社(1社)
XENTEK, INC.
製品の供給
販　売　会　社(4社)
香港太陽誘電有限公司
TAIYO YUDEN (DEUTSCHLAND)GmbH
TAIYO YUDEN(U.K.)LTD.
THAT'S AMERICA INC.

2. 企業集団の業績の概要

(1) 最近連結会計年度の業績の概要

当連結会計年度の世界経済は湾岸危機に伴う原油価格の変動、インフレと景気の両睨みの中での高金利政策、世界的な資金不足を背景とする中での米国経済のスローダウンを始めとして総じて鈍化基調で推移しました。

また、わが国経済は、個人消費が堅調に推移するとともに民間設備投資が大きく増加し、内需主導による拡大を続けてまいりました。

このような経済環境の中で電子工業は、企業の活発な設備投資を背景に産業用電子機器分野では、コンピューター、事務用機器等を中心に引き続き順調な伸びを示しました。一方、民生用電子機器分野は、円安傾向のもとで輸出は堅調に推移したものの、国内においてはＶＴＲ等主要製品の成熟化、市場をリードする牽引商品の不在などから伸び悩み、全体として低調裡に推移しました。

太陽誘電㈱の主力製品である電子部品も、このような民生用電子機器分野の不振を反映し、総じて需要が停滞しました。

かかる状況下、当社グループは国内外における生産拠点の強化、新市場開拓の推進、研究・開発体制の強化など、経営全般にわたる諸施策を積極的に推し進め、全社をあげて業績の向上に努めてまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、893億４千３百万円、経常利益は36億２千５百万円、当期純利益は４億７千７百万円となりました。

(2) 最近５連結会計年度に係る主要な財務指標

項目＼連結会計年度	自昭和61年３月１日 至昭和62年２月28日	自昭和62年３月１日 至昭和63年２月29日	自昭和63年３月１日 至昭和63年９月30日	自昭和63年10月１日 至平成元年３月31日	自平成元年４月１日 至平成２年３月31日	自平成２年４月１日 至平成３年３月31日
売上高	百万円 70,566	百万円 74,021	百万円 46,878	百万円 41,438	百万円 82,520	百万円 89,343
当期純損益	百万円 4,673	百万円 3,195	百万円 2,725	百万円 2,309	百万円 2,505	百万円 477
１株当り当期純損益	46.28円	30.22円	25.40円	21.52円	23.07円	4.36円
１株当り純資産額	677.94円	696.44円	714.82円	730.56円	751.34円	734.32円

(注) 昭和63年５月26日開催の第46期定時株主総会決議により、決算期が２月末日から３月31日に変更されたため、昭和63年９月期連結会計年度は７カ月決算であり、平成元年３月期連結会計年度は６カ月決算であります。

3. セグメント情報

(1) 事業の種類別セグメント情報

電子部品事業以外の事業の売上高および営業損益の絶対値がいずれも10%に満たさず、「証券取引法におけるセグメント情報の開示について」に規定する全ての項目について該当している為、単一セグメントとなっております。このため事業の種類別セグメント情報は作成しておりません。

(2) 所在地別セグメント情報

(単位：百万円)

	本国	本国以外	計	消去	連結
Ⅰ 売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	58,085	31,257	89,343	—	89,343
(2) セグメント間の内部売上高	19,966	6,593	26,560	(26,560)	—
計	78,052	37,851	115,903	(26,560)	89,343

(3) 海外売上高

(単位：百万円)

海外売上高	連結売上高	連結売上高に占める海外売上高の割合
35,833	89,343	40.1 %

なお、親会社の輸出高(24,533百万円)の状況については、有価証券報告書の「第3営業の状況　5.販売実績」の欄に記載してあります。

(注) 海外売上高は、親会社及び本国に所在する連結子会社の輸出高及び本国以外の国に所在する連結子会社の売上高の合計額（ただし、連結会社間の内部売上高を除く）であります。

4. 連結財務諸表

連結財務諸表について

(1) 当社の連結財務諸表は「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成している。

また、本報告書における金額の表示は、百万円未満を切り捨てて記載している。

(2) 当社は、前連結会計年度及び当連結会計年度の連結財務諸表について、証券取引法第193条の２の規定に基づき、和泉監査法人の監査を受け、次の通り監査報告書を受領している。

監　査　報　告　書

太陽誘電株式会社
代表取締役社長　川　田　　貢　殿

作　成　日　平成2年6月28日

事務所所在地　東京都千代田区内神田2丁目5番11号　桐治ビル

監査法人の名称　和　泉　監　査　法　人

代表社員 関与社員	公認会計士	柳井　明
代表社員 関与社員	公認会計士	元嶋啓治
代表社員 関与社員	公認会計士	金本毅晃

当監査法人は、証券取引法第193条の2に基づく監査証明を行うため、以下に掲げられている太陽誘電株式会社の平成元年4月1日から平成2年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益及び剰余金結合計算書について監査を行った。

この監査に当って、当監査法人は、一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠し、通常実施すべき監査手続を実施した。

監査の結果、連結財務諸表について会社の採用する会計処理の原則及び手続は、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠し、かつ、前連結会計年度と同一の基準に従って継続して適用されており、また、連結財務諸表の表示方法は「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）の定めるところに準拠しているものと認められた。

よって、当監査法人は、上記の連結財務諸表が、太陽誘電株式会社及び子会社の平成2年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する連結会計年度の経営成績を適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人または関与社員との間には、公認会計士法により記載すべき利害関係はない。

以　上

証券コード 6976

監　査　報　告　書

太陽誘電株式会社
代表取締役社長　川　田　　貢　殿

作　成　日　平成3年6月27日

事務所所在地　東京都千代田区内神田2丁目5番11号　桐治ビル

監査法人の名称　和　泉　監　査　法　人

代表社員 関与社員　公認会計士　柳　田　　明

代表社員 関与社員　公認会計士　元　嶋　啓　治

代表社員 関与社員　公認会計士　金　本　敏　男

当監査法人は、証券取引法第193条の2に基づく監査証明を行うため、以下に掲げられている太陽誘電株式会社の平成2年4月1日から平成3年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益及び剰余金結合計算書について監査を行った。

この監査に当って、当監査法人は、一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠し、通常実施すべき監査手続を実施した。

監査の結果、連結財務諸表について会社の採用する会計処理の原則及び手続は、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠し、かつ、前連結会計年度と同一の基準に従って継続して適用されており、また、連結財務諸表の表示方法は「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）の定めるところに準拠しているものと認められた。

よって、当監査法人は、上記の連結財務諸表が、太陽誘電株式会社及び子会社の平成3年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する連結会計年度の経営成績を適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人または関与社員との間には、公認会計士法により記載すべき利害関係はない。

以　上

証券コード 6976

(1) 連結貸借対照表

(単位　百万円)

科目		前連結会計年度（2.3.31日現在）		当連結会計年度（3.3.31日現在）	
		金額	構成比	金額	構成比
			%		%
(資産の部)					
I 流動資産					
1. 現金及び預金		9,769		10,670	
2. 特定金銭信託		5,500		6,520	
3. 受取手形及び売掛金	※1 ※3	19,503		23,849	
4. 有価証券		190		164	
5. たな卸資産		23,752		23,910	
6. その他		2,639		2,079	
貸倒引当金		△ 270		△ 222	
流動資産合計		61,084	54.3	66,970	58.4
II 固定資産					
1. 有形固定資産					
(1) 建物及び構築物		15,666		18,034	
(2) 機械及び装置		52,896		55,598	
(3) 運搬具		362		410	
(4) 工具器具備品		7,181		7,649	
(5) 土地		3,303		3,313	
(6) 建設仮勘定		3,409		2,513	
減価償却累計額		△43,712		△48,575	
有形固定資産合計		39,106	34.8	38,943	33.9
2. 無形固定資産		62	0.0	60	0.1
3. 投資その他の資産					
(1) 投資有価証券	※3	3,535		3,720	
(2) 長期金銭信託		3,000		600	
(3) その他		2,285		1,686	
貸倒引当金		△ 12		△ 12	
投資その他の資産合計		8,808	7.8	5,994	5.2
固定資産合計		47,977	42.6	44,998	39.2
III 繰延資産					
開発費		798		442	
繰延資産合計		798	0.7	442	0.4
IV 為替換算調整		2,332	2.1	2,115	1.8
V 連結調整勘定		310	0.3	246	0.2
資産合計		112,503	100.0	114,773	100.0

（単位　百万円）

科目	前連結会計年度（2.3.31日現在）		当連結会計年度（3.3.31日現在）	
	金額	構成比	金額	構成比
		%		%
（負債の部）				
I 流動負債				
1. 支払手形及び買掛金 ※3	10,516		10,506	
2. 短期借入金	2,407		4,656	
3. 一年内返済予定の長期借入金	517		1,799	
4. 未払金	1,255		1,117	
5. 未払事業税等	264		133	
6. 未払法人税等	1,586		1,589	
7. 未払費用	2,087		2,014	
8. 賞与引当金	1,502		1,598	
9. その他	1,076		1,388	
流動負債合計	21,214	18.9	24,803	21.6
II 固定負債				
1. 転換社債 ※2	1,572		32	
2. 長期借入金	2,949		4,440	
3. 退職給与引当金	4,240		4,614	
4. その他	246		63	
固定負債合計	9,009	8.0	9,150	8.0
III 少数株主持分	355	0.3	372	0.3
負債合計	30,579	27.2	34,327	29.9
（資本の部）				
I 資本金	16,573	14.7	16,882	14.7
II 資本準備金	34,477	30.6	34,786	30.3
III 利益準備金	1,546	1.4	1,727	1.5
IV その他の剰余金	29,326	26.1	27,050	23.6
	81,924	72.8	80,447	70.1
V 自己株式	△ 0	0.0	△ 1	0.0
資本合計	81,923	72.8	80,445	70.1
負債・資本合計	112,503	100.0	114,773	100.0

(2) 連結損益及び剰余金結合計算書

(単位　百万円)

科目	前連結会計年度（元.4.1～2.3.31）			当連結会計年度（2.4.1～3.3.31）		
	金額		百分比	金額		百分比
Ⅰ 売上高		82,520	100.0%		89,343	100.0%
Ⅱ 売上原価		64,416	78.1		70,702	79.1
売上総利益		18,104	21.9		18,641	20.9
Ⅲ 販売費及び一般管理費 ※		14,893	18.0		14,775	16.6
営業利益		3,211	3.9		3,865	4.3
Ⅳ 営業外収益						
1. 受取利息及び配当金	1,489			1,100		
2. 為替差益	1,693			—		
3. その他	798	3,981	4.8	418	1,518	1.7
Ⅴ 営業外費用						
1. 支払利息及び割引料	630			1,142		
2. 社債利息	59			3		
3. 為替差損	—			166		
4. その他	848	1,538	1.8	447	1,758	1.9
経常利益		5,654	6.9		3,625	4.1
Ⅵ 特別利益						
固定資産売却益	47	47	0.0	44	44	0.0
Ⅵ 特別損失						
1. 退職慰労金	44			—		
2. 固定資産除却及び売却損	55			158		
3. ビデオテープ事業化中止による損失	—	99	0.1	1,418	1,576	1.8
税金等調整前当期純利益		5,602	6.8		2,093	2.3
法人税及び住民税額		3,246	3.9		1,480	1.6
少数株主持分への振替利益		△ 55	△ 0.1		△ 79	△ 0.1
連結調整勘定当期償却額		△ 63	△ 0.1		△ 64	△ 0.1
為替換算調整（加算）		268	0.3		7	0.0
当期純利益		2,505	3.0		477	0.5
Ⅶ その他の剰余金期首残高		28,019			29,326	
Ⅷ その他の剰余金減少高						
1. 利益準備金繰入額	184			180		
2. 配当金	1,914			1,802		
3. 取締役賞与	18			32		
4. 新規連結子会社に係る減少高	172	2,289		—	2,014	
為替換算調整（加算）		1,090			△ 738	
その他の剰余金期末残高		29,326			27,050	

連結財務諸表作成のための基本となる事項

前連結会計年度（元.４.１～ ２.３.31）	当連結会計年度（２.４.１～ ３.３.31）
(1) 連結の範囲に関する事項 連結子会社は次の18社である。 台湾太陽誘電股份有限公司、韓国太陽誘電株式会社、TAIYO YUDEN (SINGAPORE) PTE., LTD.、香港太陽誘電有限公司、TAIYO YUDEN (U.S.A.) INC.、韓国東陽誘電株式会社、TAIYO YUDEN (U.K.) LTD.、TAIYO YUDEN (DEUTSCHLAND) GmbH、TAIYO YUDEN (PHILIPPINES) ,INC. XENTEK,INC.、※ THAT'S AMERICA INC.（以上在外子会社）太陽化学工業㈱、赤城電子㈱、月夜野電子㈱、サン・エレクトロニクス㈱、太陽福祉㈱、㈱サン・メック、※㈱ザッツ福島 ※印の子会社は、新規設立に伴い当連結会計年度から連結の範囲に含めた。また、XENTEK,INC.は、前連結会計年度まで非連結子会社であったが、当連結会計年度から連結の範囲に含めた。	(1) 連結の範囲に関する事項 連結子会社は次の18社である。 台湾太陽誘電股份有限公司、韓国太陽誘電株式会社、TAIYO YUDEN (SINGAPORE) PTE., LTD.、香港太陽誘電有限公司、TAIYO YUDEN (U.S.A.) INC.、韓国東陽誘電株式会社、TAIYO YUDEN (U.K.) LTD.、TAIYO YUDEN (DEUTSCHLAND) GmbH、TAIYO YUDEN (PHILIPPINES) ,INC. XENTEK,INC.、THAT'S AMERICA INC.（以上在外子会社）太陽化学工業㈱、赤城電子㈱、月夜野電子㈱、サン・エレクトロニクス㈱、太陽福祉㈱、㈱サン・メック、㈱ザッツ福島
(2) 持分法の適用 関連会社５社については、利益の持分が連結利益の$\frac{10}{100}$以下であり、持分法適用の範囲から除いても当企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的判断を妨げる程度の重要性がないので、持分法を適用せず、原価法により評価している。 関連会社 ㈱エイブイテック 中紀精機㈱ ㈱アーク ㈱エスイーティー ㈱スタート・ラボ	(2) 持分法の適用 同　左
(3) 連結子会社の事業年度 連結財務諸表提出会社と同一である。	(3) 連結子会社の事業年度 同　左
(4) 会計処理基準に関する事項 ① 重要な資産の評価基準 たな卸資産……製品、商品及び仕掛品については総平均法による原価法であり原材料及び貯蔵品は先入先出法による原価法である。 有価証券…移動平均法による原価法である。 特定金銭信託等の会計処理については、日本公認会計士協会の「特定金銭信託（金外信託を含む）及び指定金外信託の会計処理」を採用し、当該信託等に含まれる有価証券については、移動平均法による原価法、当該信託等についてはバスケット方式原価法を適用している。	(4) 会計処理基準に関する事項 ① 重要な資産の評価基準 たな卸資産……同　左 有価証券……同　左
② 重要な減価償却資産の減価償却の方法 法人税法に規定された方法に基づいており、有形固定資産については定率法、ただし韓国太陽誘電㈱及び韓国東陽誘電㈱は定額法、無形固定資産については定額法を採用している。	② 重要な減価償却資産の減価償却の方法 同　左
③ 重要な引当金の計上基準 ㋑ 賞与引当金 従業員の賞与の支給に充てるため、期末直近時の支給実績を基準として計上している。ただし、台湾太陽誘電股份有限公司、TAIYO YUDEN (U.S.A.) INC.、香港太陽誘電有限公司、TAIYO YUDEN (U.K.) LTD.、TAIYO YUDEN (DEUTSCHLAND) GmbH、THAT'S AMERICA INC.、XENTEK,INC.は現金基準によっている。	③ 重要な引当金の計上基準 ㋑ 賞与引当金 同　左

前連結会計年度（元.4.1～ 2.3.31）	当連結会計年度（2.4.1～ 3.3.31）
㊁ 退職給与引当金 前期末と当期末の退職金要支給額の増差額の100%を繰入れているが、親会社については退職金支給規定に基づき、調整年金部分を除いて期末在職者の自己都合による期末退職金要支給額が退職給与引当金の期末残高となるよう計上している。ただし、台湾太陽誘電股份有限公司、TAIYO YUDEN(SINGAPORE) PTE., LTD.、TAIYO YUDEN（U.S.A.）INC.、香港太陽誘電有限公司、TAIYO YUDEN(U.K.)LTD.、TAIYO YUDEN (DUTSCHLAND)GmbH、㈱サン・メック、THAT'S AMERICA INC.、XENTEK,INC.は現金基準によっている。なお、親会社は有価証券報告書重要な会計方針6の①に記載のとおり調整年金制度を採用しているが、連結子会社においては年金制度は採用していない。	㊁ 退職給与引当金 同　　左
㊂ 貸倒引当金 受取手形、売掛金等債権の貸倒損失に備えるため、国内法人については法人税法の規定(法定繰入率)に基づき計算した限度額を計上するほか、個別債権の回収状況を勘案して計上しております。 ただし、国外法人のうちTAIYO YUDEN (U.S.A.)INC.、香港太陽誘電有限公司、TAIYO YUDEN (DEUTSCHLAND) GmbH、韓国太陽誘電㈱、韓国東陽誘電㈱、THAT'S AMERICA INC.、XENTEK,INC.は個別見積りにより計上している。 台湾太陽誘電股份有限公司、TAIYO YUDEN(SINGAPORE)PTE.,LTD.、TAIYO YUDEN（U.K.）LTD.は発生時の費用として処理する方法によっている。	㊂ 貸倒引当金 同　　左
④ 外貨建債権・債務の換算基準 外貨建短期金銭債権・債務は決算日の為替相場により、外貨建長期金銭債権・債務は取得時又は発生時の為替相場により換算している。	④ 外貨建債権・債務の換算基準 同　　左
⑤ 消費税の会計処理 消費税の会計処理は、税抜方式によっている。	⑤ 消費税の会計処理 同　　左

前連結会計年度（元.4.1～ 2.3.31）	当連結会計年度（2.4.1～ 3.3.31）
(5) 投資勘定と資本勘定の相殺消去 親会社の投資勘定と連結子会社の資本勘定との相殺消去は、取引日を基準とする段階法によっている。相殺消去の結果生じた差額は発生原因が明らかなものを除き連結調整勘定とし、発生以後5年間で償却することにしている。	(5) 投資勘定と資本勘定の相殺消去 同　　左
(6) 未実現損益の消去 連結会社及び持分法適用会社間の資産の売買に伴う未実現利益は、重要性のとぼしいものを除きその全額が消去されている。	(6) 未実現損益の消去 同　　左
(7) 在外連結子会社の財務諸表項目の換算 在外連結子会社及び在外持分法適用会社の財務諸表項目の円貨への換算は、「外貨建取引等会計処理基準」（昭和54年6月26日企業会計審議会報告）によっている。	(7) 在外連結子会社の財務諸表項目の換算 同　　左
(8) 利益処分項目等の扱い 「連結損益及び剰余金結合計算書」の利益処分は連結会計年度中に確定した利益処分を示している。 連結子会社の利益準備金については連結財務諸表上は、その他の剰余金として処理している。	(8) 利益処分項目等の扱い 同　　左
(9) 法人税等の期間配分の処理 法人税等の期間配分は行なっていない。	(9) 法人税等の期間配分の処理 同　　左

連結財務諸表注記

連結貸借対照表関係

前連結会計年度（2.3.31現在）	当連結会計年度（3.3.31現在）
※1. 受取手形割引高は6,657百万円である。	※1. 受取手形割引高は5,638百万円である。
※2. 転換社債のうち外貨建転換社債は、32百万円であり、その決算時の為替相場による換算額は19百万円である。	
※3. 非連結子会社及び関連会社項目 受取手形及び売掛金 391百万円 投資有価証券(株式) 328 支払手形及び買掛金 473	※3. 非連結子会社及び関連会社項目 受取手形及び売掛金 301百万円 投資有価証券(株式) 328 支払手形及び買掛金 536
連結会計年度末日満期手形の会計処理 連結会計年度末日満期手形の会計処理は、手形交換日をもって決済処理している。なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が、当連結会計年度末残高に含まれている。 受取手形 915百万円	連結会計年度末日満期手形の会計処理 連結会計年度末日満期手形の会計処理は、手形交換日をもって決済処理している。なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が、当連結会計年度末残高に含まれている。 受取手形 129百万円

連結損益及び剰余金結合計算書関係

前連結会計年度（元.4.1～2.3.31）	当連結会計年度（2.4.1～3.3.31）
※ 販売費に属する費用のおおよその割合は57%であり、一般管理費に属する費用のおおよその割合は43%である。主要な費目及び金額は次のとおりである。 運賃及び手数料 1,959百万円 試験研究費 1,390 従業員給料手当 3,532 賞与引当金繰入額 386 退職給与引当金繰入額 116 事業税等 672 賃借料 810 減価償却費 236	※ 販売費に属する費用のおおよその割合は54%であり、一般管理費に属する費用のおおよその割合は46%である。主要な費目及び金額は次のとおりである。 運賃及び手数料 1,772百万円 試験研究費 1,645 従業員給料手当 3,905 賞与引当金繰入額 424 退職給与引当金繰入額 118 事業税等 192 賃借料 1,007 減価償却費 210

1株当り情報

摘要	前連結会計年度	当連結会計年度
1株当り純資産額	751.34円	734.32円
1株当り当期純利益	23.07円	4.36円